

コンパクトシティ政策と文化資源：

--ポートランド、ヴァンクーヴァー、富山の事例をもとに--

講演：松本 忠

プロジェクトマネジャー、経済協力開発機構（OECD）

2016年7月19日（火）18:30-20:00

世界的に注目が集まる「コンパクトシティ」をめぐるのは、日本においても、その実現方策とともに、どういった結果を招来するかについて、さまざまな観点から議論が続いています。このセミナーでは、都市に蓄積された文化資源の保全（保存と活用）に着目しながら、具体的な事例をもとに今後の展開を検討します。

< プロフィール >

1995年東京大学大学院（都市工学）修了、2008年博士（工学）。1993～94年スウェーデン王立工科大学留学、2002年ニューヨーク大学公共政策大学院修了。1995年建設省（国土交通省）入省、2009年より現職。OECDでは都市・住宅・建築政策の専門家として加盟国・非加盟国向けの政策分析、提言を行っている。主なプロジェクトに都市と気候変動（2010）、コンパクトシティ政策（2012）、都市のグリーン成長（2013）。現在はアジア都市のグリーン成長プロジェクト、第3回国連人間居住会議（ハビタット3）を担当。筑波大学客員教授、パリ政治学院非常勤教授。



会場: 政策研究大学院大学 会議室3A
主催: 政策研究大学院大学 文化政策プログラム
言語: 日本語
定員: 20名(要事前申込み、先着順、無料)

参加をご希望の方は、①氏名、②所属、③メールアドレスを明記の上、7月11日(月)までに culture@grips.ac.jp までお申込み下さい。



< お問い合わせ先 >

政策研究大学院大学 文化政策プログラム
東京都港区六本木7-22-1

TEL: 03-6439-6162 / 6164

【担当：垣内 恵美子 / 志村 聖子】

E-mail: culture@grips.ac.jp

<http://www.culture.grips.ac.jp>

